

このレスラー、本当にダメだったの！

コワルスキー道場第一号卒業生

ケビン・ヒューズ

（'80新春パイオニアシリーズ来日外国人レスラー）

力道山が創った日本のプロレスは、昭和の最後まで外国人レスラーが華を添え、ファンをワクワクさせる存在だった。多くの外国人レスラーが日本に来日する中、トップとして全米でも名をとどろかせたような偉大な常連レスラーもいれば、他方で1シーズンのみの来日で興行に華をそえた外国人レスラーも少なくない。今回は昭和のプロレス界で「史上最高級のダメレスラー」と烙印を押されたレスラーが本当にダメだったのかを検証するべく、一人のレスラーに注目した。それは1980（昭和55）年に国際プロレス「新春パイオニアシリーズ」にやってきたケビン・ヒューズである。多くの昭和プロレス関係者やファンは彼にダメ外人の烙印を押したが、それは本当に適切な判断だったのだろうか？ テレビ中継からだけの判断ではなく、試合結果や日本以外のテリトリでの活動を含めて検証したい。ちなみに「史上最高級のダメレスラー」と最初に烙印を押したのは、当時、国際プロレスのテレビ中継の

解説者をされていた菊池孝さん。ちなみに菊池さんはデキサス・マッケー、ジー、カール・ハイジנגガーと並んでケビン・ヒューズの名前を挙げている。そんな彼を今回は取り上げ深堀していきたい。

まず国際プロレス来日シリーズのパンフレットから彼を紹介しよう。「ケビン・ヒューズ。183cm、

120kg。アメリカ東部マット界で売り出し中の新鋭レスラー。若さあふれるファイトで人気急上昇中。本名はリングネームと同じ。1959年1月13日、マサチューセッツ州生まれの20歳。高校時代にアマレスとフットボールで鳴らし、卒業後にキラー・コワルスキーのレスリング・スクールに入門。79年春にデビューする。初来日はコワルスキーの推薦によるもので、第一号卒業生の愛弟子を。日本帰りは出世する。というアメリカマット界の定説にあやかり今回の来日となる」

「日本帰りは出世する」とは当時よく使われた定説だが、あなたがち

間違っている。1ヶ月近いシリーズを各テリトリから来た選手たちが一緒に生活する。そうすれば今までに無かった人間関係が日本で生まれ、そこから遠征後の別テリトリでの仕事にチャンスを見いだすテップアップしていく。この流れは実際にあった話であるが、彼のその後はどうだったか……気になる部分である。


国際のパンフではこういった解説がされているが、海外のサイトではどう解説されているのだろうか。調べてみた内容を対比して紹介しよう。

Kevin Hughesは日本来日時のリングネームであるが、その他にブッチャーを名乗ったbutcher Hughes、Kevin Francis Hughesが見つけれられる。YouTubeではbutcher Hughesで検索する方が彼の試合を観る確率が高い。ネット検索でも同じことが言える。

パンフレットには1959年生まれとあるが、海外サイトでは1957年となっている。この辺り

は若さを強調したかったのか。そこは疑問であるがマサチューセッツ州セーラム出身は間違いない。2021年12月6日に亡くなっている。フィニッシュホールドはショルダ・バスター。面白いエピソードとして彼はピエロが好きで、性格

は温厚で意地悪なところがなく、1980年代にはセーラムの病院でボランティア活動（ピエロやサンタクロースに扮して子供にプレゼント）していたという。ホームグラウンドはマサチューセッツで他に日本、カナリフォルニア、プエルトリコ、カナ

KILLER KARL KRUPP	CHIEF WHITE FEATHER		
キラー・カール・クラップ 193cm 120kg  48年日本プロレスに初来日。インター・タック選手権を獲得した。『青銅の爪』のクラップは、48年以降は毎年日本プロレスに参り込んで華を振るってきたが、今回は緑光を国際プロに輝かした。7度目の来日である。1974年、テキサス州出身、ロニー・バスター・バスター選手権を獲得して7度目来日に参り込み、クロウを脱ぎ捨てるラフ戦法で全米を席巻。北米ヘビー級選手権、アマリロのクラス・ナックル選手権を初め各地のタイトルを獲っている。79年夏にはカナダのマリタイム地区で、インスタン・ナックル・ヘビー級五冠王として最期した。国際プロには初来場した。	ジブシー・ジョー 176cm 105kg  79年冬のテキサス・ファイト・シリーズでは、緑光を初優勝・準優勝に。金銀タスマンマッチで初挑戦したジブシーは、連勝中血闘のすべ相打ち引き分けとなったその末席をつけるべく、また参り込んできた。道場を巡る人々の血闘を、ジブシー独自の『血の戦場』の足は従って戦い、国際に参ってマット界に参ったジブシーの活躍は言われているジョーが、一躍名をあげたのは79年夏、マッドドック・バスターを血の海に沈めてGWAヘビー級選手権者となった時だった。その後全米を席巻し、各地に血の戦場を巻き起こしている。7度目の来日。	チーフ・ホワイト・フェザー 180cm 102kg  現在セントラル・アメリカス・J・ヘビー級選手権者として、中南米各州からアメリカ東部を転がっている人気者。初来日。1948年メキシコの山岳地帯に、インディアの酋長の息子として生まれ、少年時代からインディア族の格闘術を習い、それを華装として、メキシコの盛衰時代にはアマレス全国大会で、3年間に金、銀、銅のメダルを獲得したという。卒業後メキシコでデビューし、メキシコ風のスピーディーなテクニクと、アメリカ風のラフ・ファイトを自在にこなす能力を以て、各地のプロモーターから引っぱりだこになっている。	ケビン・ヒューズ 183cm 115kg  アメリカ東部のマット界で、今メキシコに参り出している新鋭レスラー。若さあふれるファイトで人気は急上昇中だ。初来日。本名はリング・ネームと同じ。1959年1月13日マサチューセッツ州生まれの20才。高校時代はアマレスとフットボールで鳴らし、卒業後キラー・コワルスキーのレスリング・スクールに入門。ここであまりと認められ、79年春マット界にデビューした。初来日はコワルスキーの推薦によるもので、第一号卒業生の愛弟子をコワルスキーは「日本帰りは出世する」というアメリカマット界の定説にあやからせたかったのかもしれない。
GYPSY JOE	KEVIN HUGHES		

国際プロレスのパンフレットには「殺人教室卒業」のニックネーム。来日外国人選手が4名だった中で最後に紹介されている。

ダのテリトリーをまわった。日本でも同じだが、世界各地にプロレス遠征をした経験は大きなセールスポイントのひとつだろう。

パンフレットに紹介されている大きなポイントのひとつであるコワルスキー道場第一号卒業生は確かに間違いない事実。コワルスキー道場というトリプルHやチャイナなんかを連想する人も多いだろうが、それは道場晩年の卒業生で、開校当初の卒業生にはブルーザー・ジェフ・コスタ、マイク・シヨー、ダン・ペディリオ（キャプテンUSA）、クレイジー・フランク・エマ、リン・ホームズ（フランク・サベージ）などがある。当時コワルスキーの教えは厳しく、ひとつの技術を習得するまで反復練習、基礎体力作りにスパarring、多くの生徒は途中で逃げ出すほどだったという。

1978年にマサチューセッツでのデビュー後、彼は日本やカナダ、プエルトリコへ遠征しているが、プエルトリコでは全日本プロレスに来日したジェイ・ヨーク（ジ・アラスカン）のタッグパートナーとして活躍した。カナダではバンクーバー、アル・トムコ派の「オールスター・レスリング」で試合を行い、この時の映像はYouTubeで見ることが出来る。カナダでは他にもモントリオールのインターナショナル・レスリングでキラ・ケビン・カールソンと名乗りエドワード・カーペンティアとメインイベントに登場しているとの記載もあるが、これは他で確認ができなかった。1990年代に入るとニューハンプシャー州のWIIWO「リングサイド・レスリング」に

参戦し、これが最後のテリトリーとなったようで、WIIWOではコワルスキー道場の同期、ブルーザー・ジェフ・コスタとのコンビで1994年にタッグチャンピオンにもなっている。

では日本での成績を見ていこう。国際プロレスの80新春パイオニア・シリーズでの試合結果である。ちなみに新春パイオニア・シリーズは以下の4名である。

【参加外国人選手】
丸数字は来日回数
キラ・カール・クラップ⑧
ジブシー・ジョー⑧
チーフ・ホワイ・フエザー①
ケビン・ヒューズ①

昭和55年1月4日（金）
新潟市体育館
シングルマッチ（30分1本勝負）
アニマル浜口（8分56秒、体固め）ケビン・ヒューズ

昭和55年1月6日（日）
後楽園ホール★

タッグマッチ（45分1本勝負）
マイティ井上&阿修羅原（1-0）ケビン・ヒューズ&チーフ・ホワイ・フエザー
井上（11分56秒、片エビ固め）フエザー

昭和55年1月7日（月）
大阪府立体育館☆
タッグマッチ（45分1本勝負）
マイティ井上&アニマル浜口（1-0）ケビン・ヒューズ&チーフ・ホワイ・

フエザー
井上（11分26秒、片エビ固め）フエザー
※井上、浜口組は当時のIWA世界タッグ王者チーム

昭和55年1月9日（水）
大分県立荷揚町体育館
タッグマッチ（45分1本勝負）
グレート草津&阿修羅原（1-0）キラ・カール・クラップ&ケビン・ヒューズ
原（16分17秒、逆エビ固め）ヒューズ

昭和55年1月10日（木）
都城運動公園体育館

シングルマッチ（45分1本勝負）
ラッシャー木村（8分30秒、逆エビ固め）ケビン・ヒューズ
※木村は当時のIWA世界ヘビー級王者

昭和55年1月12日（土）
下関市体育館

タッグマッチ（60分3本勝負）
ラッシャー木村&アニマル浜口（2-0）ジブシー・ジョー&ケビン・ヒューズ
①木村組（10分58秒、反則勝ち）ジョー組
②浜口（5分38秒、体固め）ヒューズ

昭和55年1月14日（月）
長崎国際体育館
タッグマッチ（45分1本勝負）
ラッシャー木村&グレート草津（1-0）キラ・カール・クラップ&ケビン・ヒューズ
木村（17分46秒、逆エビ固め）ヒューズ

昭和55年1月16日（水）
岡山武道館★

タッグマッチ（45分1本勝負）
ラッシャー木村&グレート草津（1-0）ケビン・ヒューズ&チーフ・ホワイ・フエザー
草津（12分18秒、アバラ折り）フエザー
昭和55年1月19日（土）
串本町立体育館
シングルマッチ（30分1本勝負）
マイティ井上（8分45秒、回転エビ固め）ケビン・ヒューズ

昭和55年1月20日（日）
水町町民体育館
タッグマッチ（60分3本勝負）
ラッシャー木村&阿修羅原（2-1）ジブシー・ジョー&ケビン・ヒューズ
①ジョー（11分1秒、体固め）原
②原（4分35秒、片エビ固め）ジョー
③木村（2分17秒、逆エビ固め）ヒューズ

昭和55年1月25日（金）
津島市民福祉会館

タッグマッチ（60分3本勝負）
グレート草津&アニマル浜口（2-1）ジブシー・ジョー&ケビン・ヒューズ
①ジョー（12分7秒、体固め）浜口
②浜口（5分16秒、体固め）ジョー
③浜口（1分1秒、体固め）ヒューズ

昭和55年1月26日（土）
磐田市立体育館★

シングルマッチ（45分1本勝負）
ラッシャー木村（2分34秒、逆エビ固め）ケビン・ヒューズ

昭和55年1月28日（月）
蒲郡市民体育館☆

シングルマッチ（30分1本勝負）
グレート草津（8分25秒、アバラ折り）ケビン・ヒューズ

昭和55年1月30日（水）
秩父市民体育館★

シングルマッチ（30分1本勝負）
グレート草津（6分33秒、アバラ折り）ケビン・ヒューズ

注：★はテレビ中継ありで試合放送あり ☆はテレビ中継ありで試合放送なし

このシリーズ、外国人レスラーは4名しかいなかったのだからベテランと若手というハッキリした布陣でのシリーズとなった。パンフレットの序列で言うと同じ若手のチーフ・ホワイ・フエザーの方が少し格が上なのかもしれない。テレビ中継は6大会で、その内ブラウン管に登場したのは4回。開幕のアニマル浜口戦はシングルマッチで約9分の戦いをしている。対戦相手は全て横綱大関クラスで木村、草津、井上、浜口、原のみ。シングルマッチは約10分弱の試合が多く、タッグでは15分前後の試合が中心でシリーズ序盤はチーフ・ホワイ・フエザーとの若手コンビ、後半は主にジブシー・ジョーのタッグパートナーを務めた。テレビ中継で悪い印象を残してしまったのはシリーズ終盤の磐田市立体育館大会でのラッシャー木村戦で2分34秒での完敗、これはDVDにも収録されているが、弱さ、未熟さが全面



シリーズ終盤戦のテレビ中継ではエースの木村、副将の草津を引き立たせる役割を果たし、存在感を放った。



アル・トムコ派の「オールスター・レスリング」では同じコワルスキー道場出身の選手たちとテレビマッチに多く出場。



に出た試合だった。しかしその他を見ると短時間で終わる試合はなく、シリーズ終盤という事を考えると、よくあるメインエベントを引きたせる、いわゆるジョバーの仕事と考えても不思議ではない。短時間で負けた試合はこれのみである。また同じ若手のチーフ・ホワイト・フェザーも翌々の最終戦で木村に3分41秒で負けているが、この試合もテレビ収録されていて、ヒューズは試合の途中で乱入し、ハンディキャッ

プマッチの場面を演出した。エース木村の強さを引き立たせ、次のシリーズの伏線としての役割は充分に果たしたとも言える。

この結果だけを見ていると、全然使えない選手ではなかったのではないだろうか。本当にダメな外国人レスラーならばシリーズ途中でいなくなることもある。ダメ外人の烙印、この線引きは難しいが役割を果たすことがイコール仕事ができるという事であれば、木村の強さをテレビ

マッチで印象づけたことは逆に評価に値するものである。「木村とのシングルマッチの後、控室で鉄拳制裁された」とされる話しよく耳にする話ではあるが、これを行ったとされるジブシー・ジョーとてアメリカではジョバーの役割を果たしていた経験の持ち主。それを考えると鉄拳制裁の話は、どこまでが本当なのかは疑問だが、しかしこういう話題を提供することもまたケビン・ヒューズの役割であり評価だったの

かもしれない。

これらのことを踏まえ、彼を再評価すると、あながち全く使えない選手ではなかったのではないだろうか。役割を果たすことがイコール仕事ができるという事であれば、木村の強さをテレビマッチで印象づけたことは逆に評価に値するものである。

DVDで映像収録された木村戦、YouTubeで映像が残っているオールスター・レスリングでのタッグマッチ、その後のレスリングキャリアを

見て判断できることは、新進気鋭の若手レスラーで確かにレスラーとしての格は低いまま名前を世に広めたことはできなかった。しかし仕事が出来なかったかと言うと、まったく問題外だったとは言えないものもある。調べれば調べるほどに簡単にダメ外人の烙印を押しているのだからかと思ったケビン・ヒューズ、彼もまた昭和プロレスには欠かせなかったパイプレイヤーの一人に違いない。

(伊藤)